

デモ行進中、県庁を向いてのシュプレヒコール(10月31日、県庁付近にて)



08対県確定闘争 第2波統一決起集会

10月31日、兵教組と県職労は「第2波統一決起集会」を開催。兵教組から1087名が参加した。集会冒頭、県職労の坪田眞樹委員長は、近隣の大会を遵守している。その団



坪田 眞樹 (県職労委員長)

阪府や岡山の例を出し、「強圧・強権的な発言や主権を剥奪していく手法がブームになっていく。兵庫県のこのようなくちあいつつをした。利・仕事等を剥奪していく手法がブームになっていく。兵庫県のこのようなくちあいつつをした。利・仕事等を剥奪していく手法がブームになっていく。兵庫県のこのようなくちあいつつをした。

兵教組組合員先頭を切って戦い抜いていこう

兵教組独自の閉会集会で、兵教組山名幸一委員長は「私たちは、毎月平均2万1千円以上減給されているのが実情。私たちに何の責任もない理由で賃金合理化、削減がなされている。このことに怒りをもって、立ち上がるのはきわめて当然のこと。ますます多忙化し、複雑化する学校現場の労働。今の賃金が、士気高揚の一つにならなければならない。あきらめてはならない。また、アメリカの金融不安の問題が、今年の確定に影響を及ぼすのではという懸念を当局が発言。新たな賃金削減、合理化の動きもある。私たちは、これ以上の賃金合理化を許してはならない。この2008対県確定闘争

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
 兵庫県教職員組合
 発行人 山名 幸一
 編集人 西嶋 保子
 電話 050(3538)2346
 1部7円 年定価280円
 (組合員の購読料は組合費の中に含む)
 2008/11・11
 No. 1728
 2面
 「施設の子どもたち」支援
 実践交流集会



人権教育ひょうごは、10月25日、人権歴史マップスタディツアーを篠山市で開催した。秋晴れで絶好のお天気の中、兵庫県内各地から45人が参加した。今回のスタディツアーは、ひょうご部落解放・人権研究所が昨年に発刊した「人権歴史マップ・丹波版」を使い、篠山市内各地に残

人権教育ひょうごは、10月25日、人権歴史マップスタディツアーを篠山市で開催した。秋晴れで絶好のお天気の中、兵庫県内各地から45人が参加した。今回のスタディツアーは、ひょうご部落解放・人権研究所が昨年に発刊した「人権歴史マップ・丹波版」を使い、篠山市内各地に残

人権教育ひょうご スタディツアー 山

「人権の視点で民衆の歴史を見直そうと思った」



北谷 錦也 (兵教組執行委員)



た曾地河原、1907年に大阪から篠山へ移動された歩兵第70連隊跡地などを見学。篠山の地でも厳しい差別に抵抗した民衆・先人の闘いの軌跡に参加者はそれぞれに思いを馳せていた。参加者アンケートでは、「昔の人たちの息づかいが聞こえてきそうな気がする」「人権の視点で民衆の歴史を見直そうと思った」「当時の人々の誇りを感じることができた」「こういう企画を続けてほしい」など、多くの感想を寄せていただいた。

今年、日帰りのスタディツアーで、実質2時間30分のコースだったが、地元からの参加者も多く、充実したツアーになった。

人権教育ひょうごでは、今後も年1回の開催を目標に、スタディツアーを開催していきたいと考えています。スタディツアーに関するご意見やご希望は、人権ひょうご事務局TEL(050-3538-1234)兵教組教文部まで。

十一月の朝顔

たつの市室津小学校 五年 梶田 ふみ

十一月。もつ冬なのに一輪だけ、そっと朝顔がさいた。冬の空みたいな青いサファイアの宝石みたいにさいた。そこだけ夏にもどったみたいだった。□からほっと息が出た。夏休みの花なのに冬にさいてもおかしくなかった。宝物を見つけたような気がした。

(いよみの詩と絵 第28集より)

大切な住まいと家財のことを守るなら

ご契約例

補償額4,000万円のご契約の場合 (建物契約2,500万円 家財契約1,500万円)

全焼損には	半焼損には	一部焼損には	風水雪害による住宅災害には
4,000万円	3,000~1,400万円	1,200万円以内	最高450万円
⊕臨時費用	⊕臨時費用	⊕臨時費用	⊕臨時費用

年掛金 木造住宅28,000円 耐火構造住宅14,000円

割安な掛金

年掛金は全国一律

補償額10万円あたり

木造70円

耐火構造35円

安心の補償

焼損割合

66%以上で

全焼損として

お支払い

築年数は関係なし

火災の損害には

再取得価額で補償

※被覆にあった建物、家財と同程度のものを新たに購入・修復するために必要な価格

必要にあわせて

家財契約または

建物契約だけでもOK

お住まいにあわせて

ご契約できます

火災だけじゃない

風水雪害による

損害も補償

地震・噴火見舞金制度

もあります

教職員共済協会の火災共済があります

住宅災害等給付金付火災共済

お問い合わせは

教職員共済生活協同組合 兵庫県支部

〒650-0004 神戸市中央区中山手通4丁目10-8 ラッセホール4階

TEL: 078-221-9730 FAX: 078-221-1199

※この広告は教職員共済協会の火災共済の概要を説明したものです。ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項等説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。制度内容をご確認ください。

承 08-56-17(0808)



施設で生活する子どもたちにゆたかな学びを ～「施設の子どもたち」支援実践交流集会

児童養護施設と学校園が

連携したとりくみを

「施設の子どもたち」支援実践交流集会は、10月4日(土)ラッセホールにおいて開催され、児童養護施設にかかる児童生徒支援担当教員・各支部代表・児童養護施設関係職員等約80名が参加した。

実践・体験の発表

小学校教諭

「10年前に比べ、被虐待経験のある児童の数が多くなっている。施設で起こっている問題はそのまま学校の問題と考え、組織的なプロジェクトとして解決に取り組んできた。栽培を通じて労力を金品に換える活動など、様々な体験活動とおして子どもを育ち支えようとしている」

元幼稚園教諭

「言葉の不足などコミュニケーション力に課題がある

生活する生徒の進路の実態は依然厳しい。「自尊感情を育てる」というが、人権教育の成果をいざばん課題のある子に届ける必要がある」

Children's Views & Voices (CVV) SKYCAN

「子どものこころ」施設の子」とひとくくり

「施設内での子どもどうし、学校の教諭からのトラブルをきっかけに、子どもの実態やとりくみの様子、課題が発言された。『学校に責任があるのでは、ないか』と考えるようになり、学校組織としてのとりくみをすすめてきた。施設が手を携えて子どもの育ち

元中学校教諭

「困る子」という見方や、子ども視点で考える姿勢の大切さは、どこの教育現場でも生かさなければいけないと再認識した。

参加者の感想

「いろいろな事例を聞きながら、「施設で生活する子ども」の課題を学校の問題としてとらえることが大切であると思った。学校での対応に「逃げ」はないか、あらためて職場に帰り見直したい。

「子どもたち全てが楽しく生活し自尊感情を育んでいくことができよう、職員全体で共通意識を持ち、施設との連携を密にしながらくみを進めていくことの必要性を感じた。

「施設の子どもたち」支援研究会のとりくみは、始まったばかりである。県内には30の児童養護施設があり、各施設と学校園の間では様々な連携がおこなわれているであろう。この集会を契機として、施設で生活する子どもたちにゆたかな学びを保障するための実践が活発に交流され、県内各地において児童養護施設と学校園が連携したとりくみがさらにすすめられていくことを願う。

心の成長

揖保郡太子西中学校 三年 石川 敦士

人を傷つけた事は、ありますか？
自分を傷つけた事は、ありますか？
自分を傷つけられた事は、ありますか？
友達をいじめた事は、ありますか？
親とケンカをした事は、ありますか？
身近な人の死に直面した事は、ありますか？
僕は、今までいろいろな事を自分の肌で実感してきました。
その事を、マイナスに考えますか？
僕はプラスに考えます。
なぜなら、これらの事は、私を大きく成長させてくれるからです。
人を傷つけた事で、自分の弱さを



淡路市一宮中学校一年 南 佳歩

自分を傷つけた事で自分の大事さを
自分を傷つけられた事で、相手を思いやる気持ちを
友達をいじめた事で、その人の存在の大きさを
親とケンカした事で、家族の愛情を
身近な人の死に直面した事で、命の尊さを
僕は、これらの事で大きく成長できました。

(子どもの詩と絵 第28集より)



「施設で育った方の話を聞いて、子どもがそのときに感じていることと周りで大人が思っていることの間にはずれがあると感じた。
きょうの登壇者が教育現場に対してどんな問いかけをし、参加者が何をつかんだかが大切である。
「教育保障は教育行政が責任をもっておこなうべき。その声をあげていくのは、学校と施設だ」というまとめの言葉がたいへん重く響いた。

とりくみの継続を

兵教組・兵庫教育文化研究所は、これまでの「子ども虐待」実態調査のとりくみを受け、西宮支部の協力を得て昨年「施設の子どもたち支援研究会」(仮称)を立ち上げ、児童養護施設と学校園との連携のあり方について研究をすすめてきた。本集会は、県内各地の児童養護施設のある分会のとりくみを交流しそのネットワーク化をはかることを目的として今回初めて開催されたものである。

すまいる住宅貸付があなたの夢を応援します

学校厚生会

すまいる住宅貸付

マイホームの購入・リフォーム・借替え

「現在返済中の特約優遇金利期間終了後、優遇金利幅が小さくなり月々の償還金が増える!」とご心配の方、すまいる住宅貸付への借替えをおすすめします。



貸付に関するお問い合わせは、支部事務所又は信用共済部まで
(財)兵庫県学校厚生会 信用共済部 電話 (078) 331-9974 (直通)

40周年記念金利延長 決定!

特約	固定金利	2年	年利 1.26%
		3年	年利 1.41%
		5年	年利 1.74%

※新規お申し込みの方限定

2008年11月1日現在

3大疾病保障付「すまいる住宅貸付」

すまいる住宅貸付利率+^{上乗せ金利}0.20%

3大疾病と診断されれば、住宅ローンの残高が0円!

「すまいる住宅貸付」新規申し込みに限ります。既契約には付帯できませんのでご了承ください。新規借入れする方で貸付日現在の加入年齢が満19歳6ヵ月を超え満50歳6ヵ月までとなります。

2009年2月23日受付分まで

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通4丁目7-34